

令和2年度 第1回いしかわ森林環境基金評価委員会 次第

日時：令和2年9月2日（水）13時30分～

場所：県庁行政庁舎11階1102会議室

1 開 会

2 農林水産部長あいさつ

3 議 事

- (1) 令和元年度の実績
- (2) 令和2年度の事業計画

いしかわ森林環境基金評価委員会 委員名簿

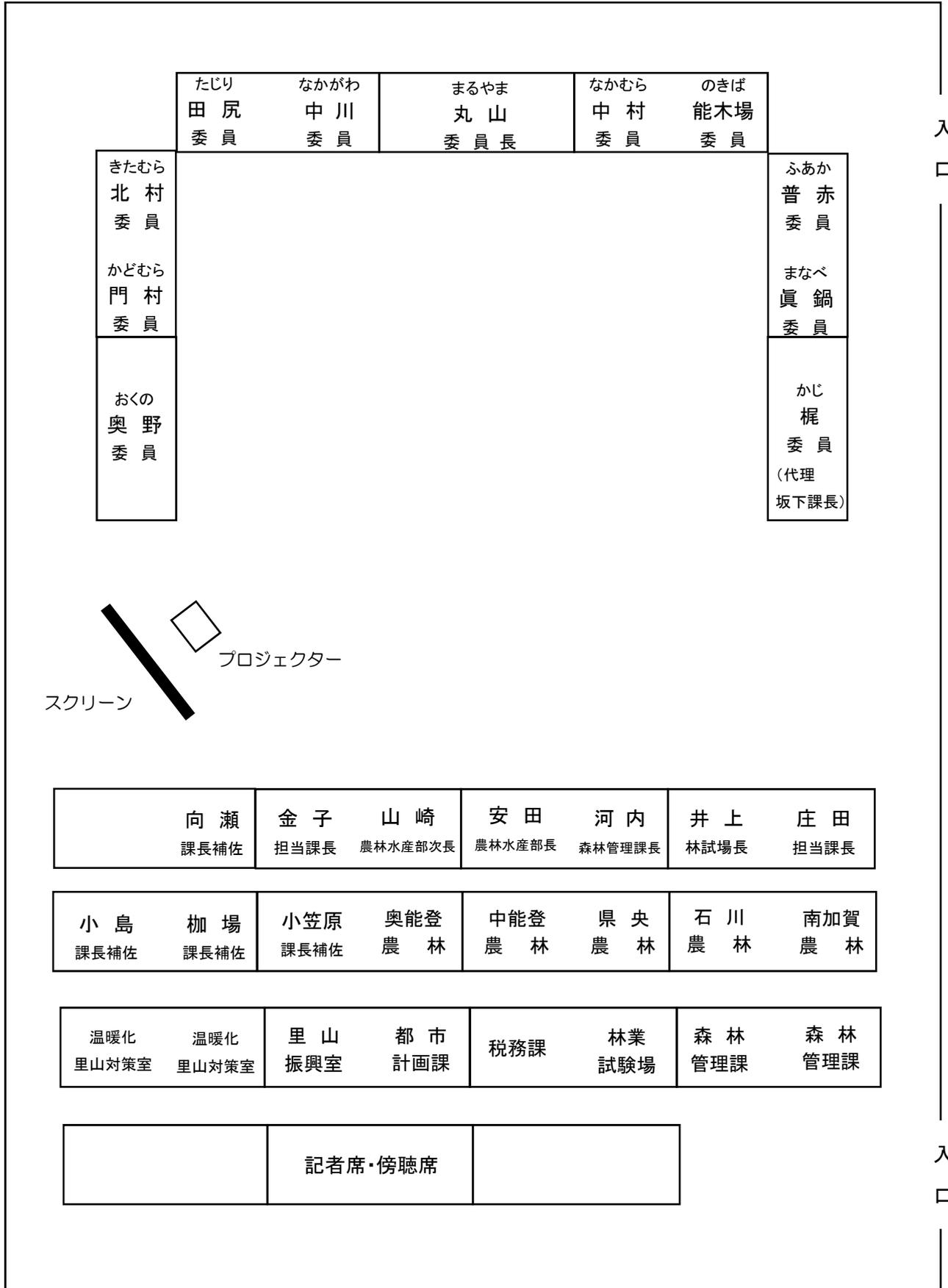
氏 名	役 職 等
いしづか かずみ 石 塚 和 美	石川県社会福祉協議会保育部会 保育士会会長
おくの みやこ 奥 野 美彌子	みらい子育てネット石川県地域活動連絡協議会 会長
かじ ふみ あき 梶 文 秋	輪島市長
かどむら かずなが 門 村 和 永	石川県森林組合連合会 代表理事会長
きたむら ゆうこ 北 村 祐 子	石川県商工会女性部連合会 副会長
たじり すみえ 田 尻 純 江	石川県建築士会 理事・副会長
なかがわ かずなり 中 川 一 成	石川県町会区長会連合会 会長
なかむら こうじ 中 村 浩 二	金沢大学名誉教授
のきば ゆきこ 能木場 由紀子	石川県婦人団体協議会 会長
ふあか きよゆき 普 赤 清 幸	石川県商工会議所連合会 専務理事
まなべ ともこ 眞 鍋 知 子	金沢大学 教授
まるやま としすけ 丸 山 利 輔 (委 員 長)	石川県立大学参与
(1 2 名)	

(敬称略：五十音順)

令和2年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会座席表

令和2年9月2日(水)13:30～

県庁行政庁舎11F 1102会議室



入口

入口

いしかわ森林環境基金評価委員会 設置要綱

(設置目的)

第1条 いしかわ森林環境基金条例（石川県条例第41号）第1条に定める「いしかわ森林環境基金」（以下「基金」という。）を財源とした事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性について検討するため、「いしかわ森林環境基金評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、もって、同事業の透明性の確保と県民の理解増進にも資する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次の事項について検討する。
(1) 事業実績及び事業成果等の検証・評価に関すること
(2) 事業の継続や見直しの必要性に関すること
(3) その他事業の推進に関すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、市町長及び学識経験者、経済、社会教育、県民・消費、農林水産関係団体の有識者からなるものとし、別紙のとおりとする。
2 委員会に委員長を置くものとし、委員の互選により選出する。
3 委員長は、会務を総理し、委員を代表する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2 委員の再任は、妨げない。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長は委員長があたる。
2 委員長に事故があるときは、委員長が指名する委員がこれを代行する。
3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
4 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
5 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、委員長の決するところとする。

(議事内容の公表)

第6条 委員会は、原則として公開により実施し、議事内容は、議事要旨により公表する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、石川県農林水産部森林管理課において行うものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は委員会で定めるものとする。

附則

この要綱は、平成20年6月9日から施行する。
一部改正 平成24年4月2日

1. 趣旨

石川県では、県土の7割を占める森林を健全な姿で次世代に引き継いでいくため、県民の理解と協力のもと平成19年度から「いしかわ森林環境税」を導入。

この税を活用し、水源のかん養や山地災害の防止など森林の公益的機能の維持増進に向けた手入れ不足人工林の整備等とともに、森林に対する県民の理解の醸成や県民参加の森づくり活動等の推進を図るための各種事業を実施。

<これまでの取組みの変遷>

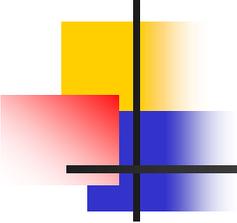
区分	いしかわ森林環境基金事業			国譲与税による整備 県環境税による整備を継続 県環境税の新たな使途	第3期 (R1~R3:計画)
	第1期 (H19~H23)	第2期 (H24~H28)	第3期 (H29~H30)		
手入れ不足人工林の整備	○ 10,550ha	○ 9,500ha	○ 300ha/年	→	— 300ha/年
竹林の除去	—	○ (侵入竹) 675ha	○ (放置竹) 120ha/年	→	○ 120ha/年
荒廃した里山林における緩衝帯の整備	—	—	○ 60ha/年	→	○ 60ha/年
県産材利用の促進	—	—	—	→	○ (追加)

2. いしかわ森林環境基金評価委員会

事業の透明性を確保するため、いしかわ森林環境基金評価委員会を設置し、事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性を検討。

- ・毎年度、事業の実績及び成果の検証・評価
- ・「いしかわ森林環境基金条例」改定時（5年毎）や情勢の変化があったときなど必要に応じて、事業の継続や見直しについての検討

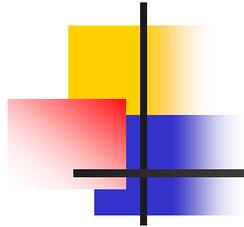
<p>いしかわ森林環境基金評価委員会 設置要綱</p> <p>(設置目的)</p> <p>第1条 いしかわ森林環境基金条例（石川県条例第41号）第1条に定める「いしかわ森林環境基金」（以下「基金」という。）を財源とした事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性について検討するため、「いしかわ森林環境基金評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、もって、同事業の透明性の確保と県民の理解増進にも資する。</p> <p>(検討事項)</p> <p>第2条 委員会は、次の事項について検討する。</p> <p>(1) 事業実績及び事業成果等の検証・評価に関すること</p> <p>(2) 事業の継続や見直しの必要性に関すること</p> <p>(3) その他事業の推進に関すること</p>
--



いしかわ森林環境基金事業の主な取組実績

第3期（R1）実績

- I いしかわ森林環境基金（ハード）事業
- II いしかわ森林環境基金（ソフト）事業
- III 県産材利用促進事業



I いしかわ森林環境基金(ハード)事業 第3期(R1)実績

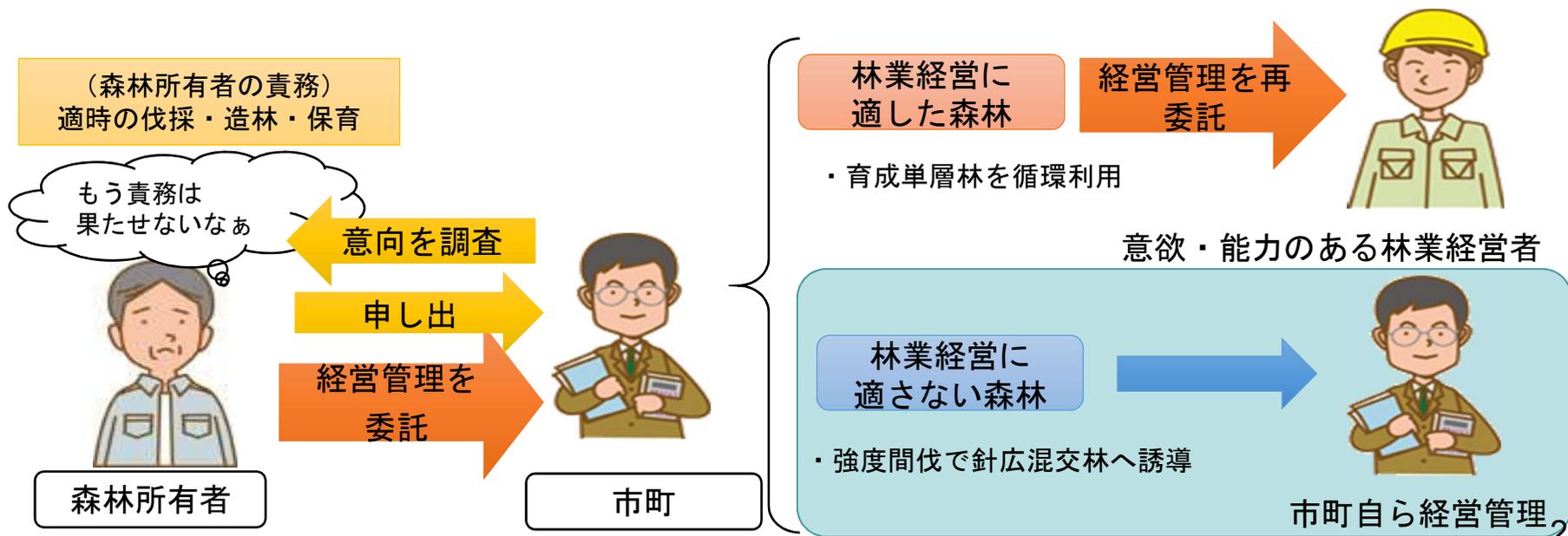
1 手入れ不足人工林の強度間伐

林業採算性の悪化や山村の過疎化等により、整備がされず公益的機能が低下した人工林（手入れ不足人工林）の機能を回復するため、通常の間伐の2倍程度にあたる40%以上の本数を一度に間引きする間伐（強度間伐）を実施

〈いしかわ森林環境基金事業および森林環境譲与税による整備〉

手入れ不足人工林22,000haのうち、第1期、第2期で約20,000haを整備。
未整備の約2,000haのうちの1,000ha（残り1,000haは利用間伐に移行）と新たに発生した約2,000haを併せた3,000haのうち、第3期では半数の1,500haの整備を計画。

⇒ 令和元年度からは、新たに導入された国の森林環境譲与税を活用し、市町が主体となって森林経営管理制度により整備を実施



■強度間伐の実施状況(能登町上町地内)



(単位:ha)

項目		第3期					
		H29	H30	R1	R2	R3	計
いしかわ森林環境基金事業による強度間伐	計画	300	300	—	—	—	600
	実績	398	387	—	—	—	785
森林環境譲与税による整備	計画	—	—	300	300	300	900
	実績	—	—	28			28
計	計画	300	300	300	300	300	1,500
	実績	398	387	28			813

2 森林の公益的機能の低下をもたらす放置竹林の除去

森林の持つ公益的機能の発揮に支障を来すおそれのある、周辺森林に侵入・繁茂している管理されなくなった竹林の除去を実施。

〈整備状況〉 ○放置竹林の除去は5カ年で600haの整備を計画。

R1年度は77haを整備。

(単位:ha)

項目		第3期					計
		H29	H30	R1	R2	R3	
放置竹林の除去	計画	120	120	120	120	120	600
	実績	121	124	77			322
植栽	実績	19	19	18			56
再生竹の刈払	実績	206	213	222			641

■放置竹林の除去の実施状況(かほく市山田地内)



3 クマ、イノシシなどの野生獣の出没を抑止するための緩衝帯整備

野生獣の出没を抑止することを目的として、過密化した里山林において森林の見通しを良くするため、立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施

〈整備状況〉

○緩衝帯の整備は5カ年で300haの整備を計画。

R1年度は県内10地区で61haを整備。

(単位:ha)

項目		第3期					計
		H29	H30	R1	R2	R3	
緩衝帯の整備	計画	60	60	60	60	60	300
	実績	64	57	61			182

地区数 H29:12地区、H30:10地区、R1:10地区

■緩衝帯整備の実施状況(能登町字上長尾地区)

整備前

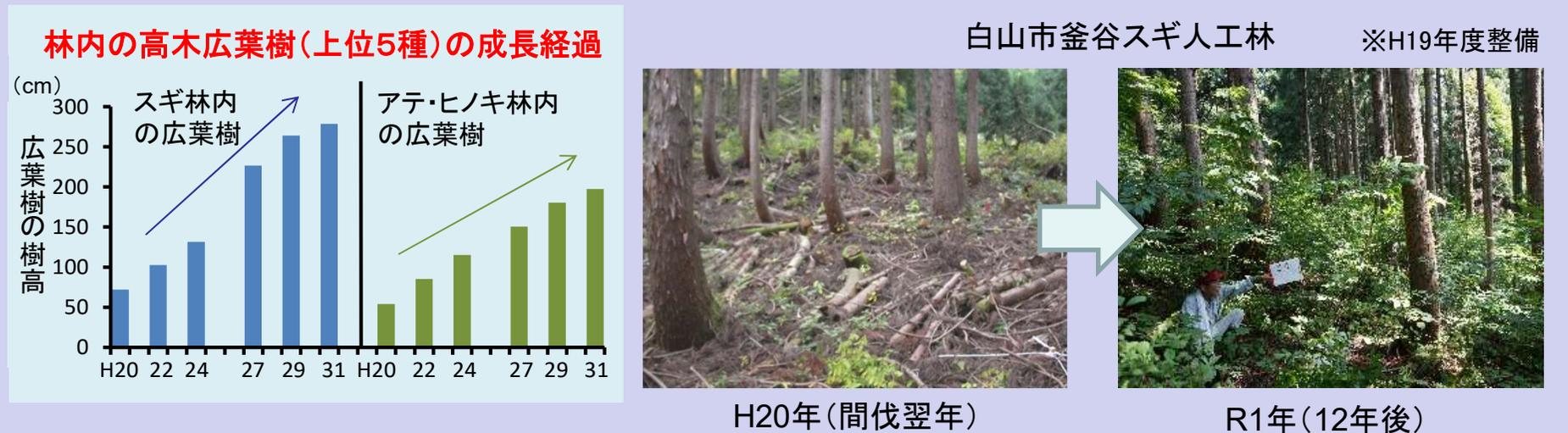


整備後



環境林モニタリング（植生回復）調査 —多くの広葉樹が更新し生育—

1. 手入れ不足人工林の強度間伐（本数間伐率40%以上）跡地：40カ所で継続調査（H20～）



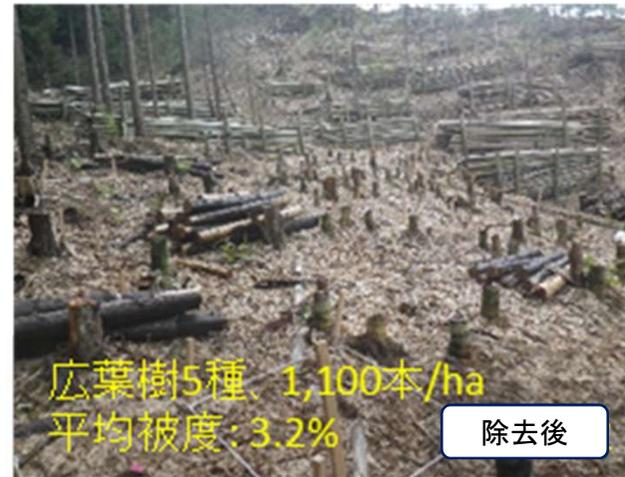
2. 侵入竹林整備（親竹伐採と2年間の再生竹刈払）跡地：20カ所で継続調査（H24～）



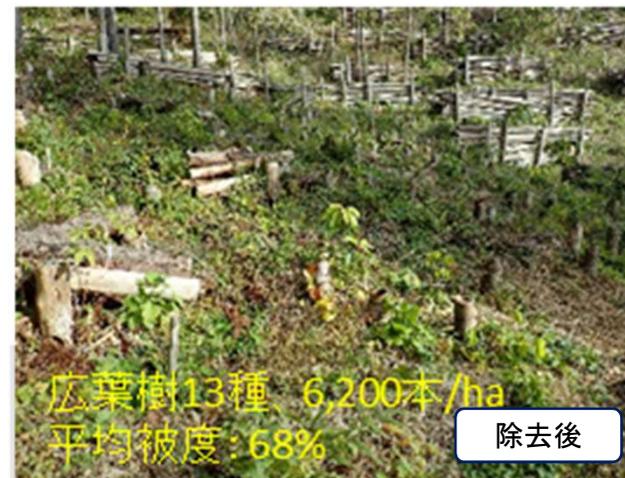
環境林モニタリング（植生回復）調査 －多くの広葉樹が更新し生育－

3. 放置竹林整備（親竹伐採と2年間の再生竹刈り払い）跡地：20カ所で継続調査（H29～）

H29
親竹の伐採



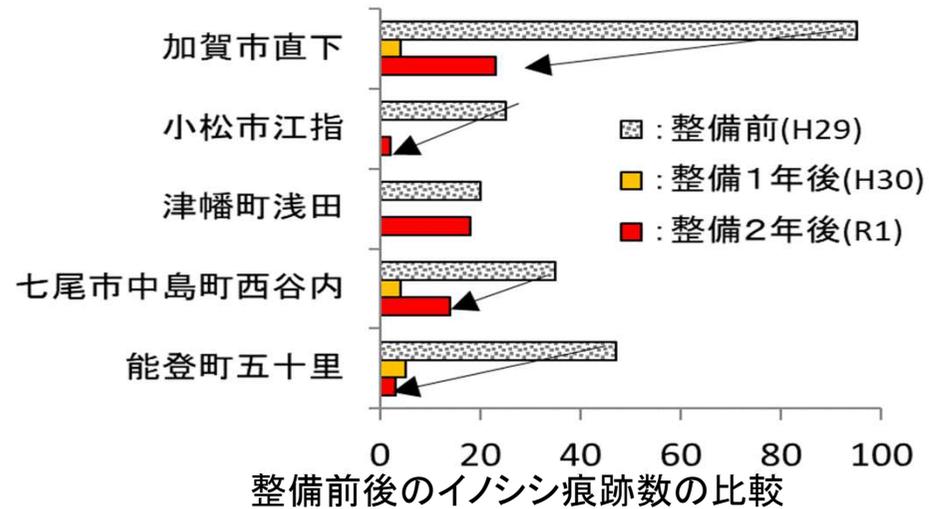
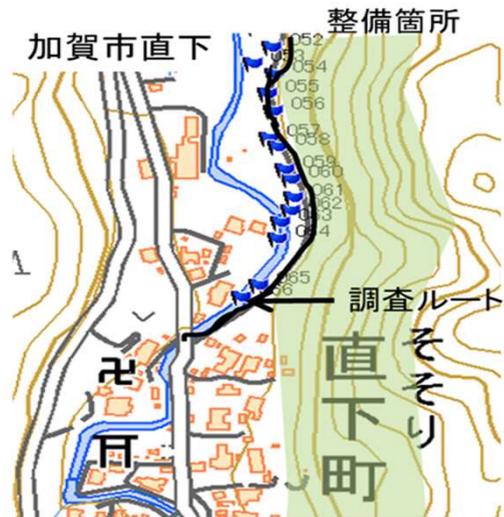
R1
再生竹の刈払



野生動物の出没を抑制する緩衝帯整備モニタリング調査

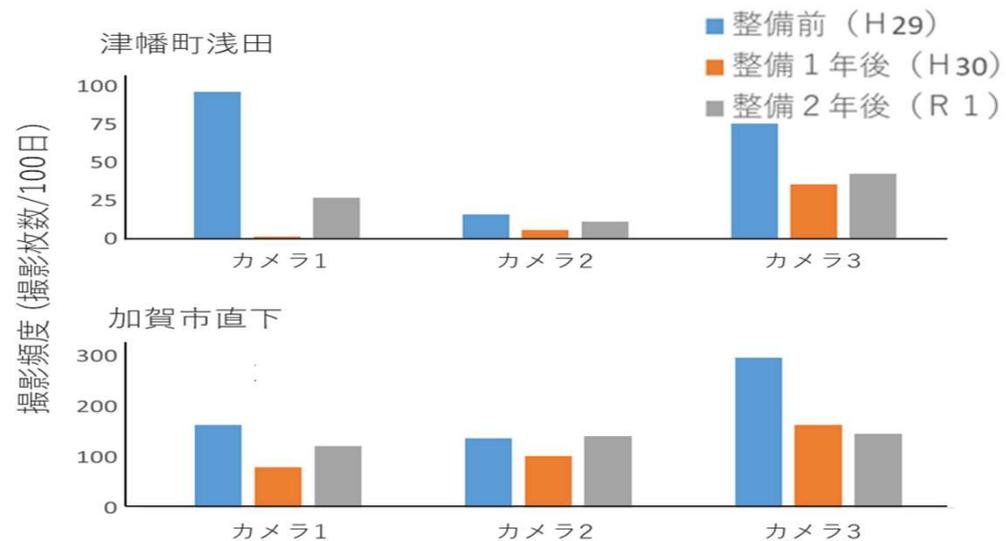
1. 整備前後における痕跡(イノシシ)調査結果

- ・集落と緩衝帯整備森林との間に、約1kmの調査ルートを設置
- ・イノシシの痕跡(ケモノ道、足跡、掘り返し、食害痕、落石など)の位置と数を調査



2. カメラ調査結果

2地区に自動撮影カメラを設置し、イノシシの出没状況を調査



野生動物の出没を抑制する緩衝帯整備モニタリング調査

3. 聞き取り調査結果

○金沢市田上地区（R1実施）



（整備前）

- ・毎日クマの出没があり、付近での朝晩の散歩を禁止。
- ・小学校の登下校時間帯に大人の当番制による見守りを実施。クマへの警戒が非常に高まっていた状況。



（整備後）

- ・見通しや景観が改善。
- ・クマが出没しなくなり、住民からは喜びの声が聞かれる。
- ・市の補助事業で整備後の下草の刈払い等を継続。
- ・整備箇所以外には有志による草刈りに取り組んでいる。
- ・緩衝帯整備を皮切りに、地区の諸問題に地域一丸となって取り組んでいく機運が高まる。

○能登町五十里地区（H29実施）



（整備前）

- ・イノシシによる農業被害が毎年発生。
- ・被害対策は住民個々で電気柵を設置するなどの対応。

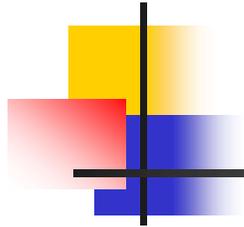


（整備後）

- ・イノシシによる農業被害が大きく減ったとともに、イノシシの出没も抑えられている。
- ・地区内にイノシシ捕獲檻を設置し、捕獲にも注力。

（R2現在）

- ・整備箇所の見回りと併設された電気柵の維持管理を集落全体の当番制や専任制で実施。
- ・獣害に対して住民一丸となって策を講じている。



Ⅱ いしかわ森林環境基金(ソフト)事業 第3期(R1)実績

II いしかわ森林環境基金(ソフト)事業

いしかわ森林環境基金(ソフト)事業においては、「森林や木材利用に対する理解の増進」と「県民参加の森づくりの推進」を2本柱として、他部局とも連携しつつ、施策を展開

	事業名等	事業概要
森林や木材利用に対する理解の増進	いしかわ森林環境評価委員会開催	税の使途説明及び検証のため、第三者からなる評価委員会を開催(委員12名)
	いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの作成・配布や、イベント、のぼり旗、成果を紹介する映像や広報誌等による普及広報
	いしかわ森林環境功労者表彰	県内での森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰
	いしかわ森林環境実感ツアー	親子や一般県民、小学生を対象とした、川上(間伐の現場)から川下(木造公共建築物)までを見学するバスツアーの開催
	木に親しむまちづくり推進事業	建築士等を対象に、新たな建築資材(CLT等)や最新の木造建築に関する工法、県産材活用例等を紹介する講習会を開催
	森林への理解を育む木育推進事業	保育士等を対象に、子どもたちへ木の大切さを伝えるセミナーや、遊びと学びを組み合わせた実演会を開催
県民参加の森づくりの推進	こども森の恵み推進事業	次世代を担う子供達を対象とした森林環境教育や体験活動を実施するNPO等への支援
	いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業	毎年10月の推進月間において、県民が参加する森づくりイベントを開催
	企業の森づくり推進事業	企業による森づくりを推進するためのフィールドマップの作成や企業に対する説明会、現地見学会などの開催
	いしかわ身近な森保全事業	里山林等において地域住民等と協働して行う森林整備や木材等の利用活動への支援
	森づくりボランティア推進事業【生活環境部】	里山等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等への支援
	里山子ども園推進事業【生活環境部】	里山を活用したもりの保育園のモデルプログラムの企画実施、保育士等の体験会実施
	いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業【生活環境部】	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行
	いしかわ版CO2削減活動支援事業【生活環境部】	企業への森林保全活動(CO2削減活動)に対する理解促進
いしかわ景観キッズプログラムの開催【土木部】	小学生を対象に、里山景観に関心を抱き、大切さを学習する体験教室を開催	

○ いしかわの森づくり普及広報推進事業

- (1) 広報誌に事業取組を掲載
- (2) 新聞に事業取組や効果などを掲載
- (3) テレビ等により、実施状況をPR
- (4) パンフレット等の配布
- (5) 農林漁業まつり、県民みどりの祭典など各種イベントにおけるPRの実施 等



いしかわの里山里海展（8/24(土)、25(日)）



農林漁業まつり（10/5(土)、6(日)）



いしかわ森林環境税パンフレット



新聞広報（8、10、3月） 取組紹介

→普及啓発事業全体の参加人数：これまでで最多の16,982人が参加

○ いしかわ森林環境功労者の表彰(H20～)

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰

区分	功労者	表彰者数
R1	能美の里山ファン倶楽部 津幡町立英田小学校 大吞グリーンツーリズム推進協議会 ケロン子ども森の学校委員会	4

※過去5カ年の受賞者

区分	功労者	表彰者数
H30	加賀東芝エレクトロニクス株式会社 四十万木の駅プロジェクト実行委員会 石川県立穴水高等学校	3
H29	滝ヶ原町鞍掛山を愛する会 株式会社北國銀行 かほく市立金津小学校 能登島松茸山再生研究会 中山 吉男	5
H28	もりラバー林業女子会@石川 千里浜まちづくり協議会 竹林 臣夫 中本 安昭	4
H27	七尾市立天神山小学校 三谷地区活性化推進協議会 NPO法人角間里山みらい 「つたえよう美しき森」推進委員会 鶴来信用金庫	5
H26	河北郡林業研究会 一般財団法人きんしん環境財団 北陸電力株式会社 七尾支社	3



県民みどりの祭典について表彰（津幡町）

○ いしかわ森林環境実感ツアー

一般県民や小学生を対象に、手入れ不足人工林やその整備状況等の現地を見学するバスツアーを開催

〈森林環境実感ツアー(親子向け)〉(H29~)

開催日	内容	参加人数
9/8(日)	間伐現場の見学、侵入竹整備地の見学、木工作体験等	26

※H29:59人 H30:50人



木工作体験(小松市)



侵入竹整備地の見学(小松市)

〈森林環境実感ツアー(一般向け)〉(H19~)

開催日	内容	参加人数
9/8(日)	侵入竹整備地の見学、県木アテの植栽地の見学、真脇遺跡での体験学習等	34

※H28:52人 H29:52人 H30:49人



真脇遺跡での体験学習(能登町)



県木アテ植栽地(能登町)

〈森林環境実感ツアー(こども向け)〉(H24~)

開催日	参加学校	参加人数
10/3(木)	天神山小学校	70
10/18(金)	御園小学校	113
10/21(月)	松陽小学校	57
10/25(金)	英田小学校	37
10/25(金)	金津小学校	34
11/29(金)	錦城小学校	69
計	6校	380

※H28:170人(5校) H29:278人(9校) H30:747名(10校)



間伐作業を見学(白山市)



木材加工工場を見学(七尾市)

→9割以上の参加者が、森林・林業の意義について理解し、森林環境税の活用方法を評価

○ 木に親しむまちづくり推進事業(H29～)

平成29年度より、県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深める取組として、新たに追加。

建築士、関係者等を対象に、木造建築の最新事例や設計のノウハウに関する講習会を開催

開催日	講習会題目	講習会内容	参加人数
8/8(水)	県産材の使い方	木材の伐採、搬出、木材市場、製材工場に至るまでの流れを体感	25
9/28(土)	改正建築基準法による 中大規模木造の設計手法	改正建築基準法施行による防耐火設計の座学と焼杉板づくりから学ぶ	40
10/26(土)	中大規模木造建築物の構造設計	大スパン架構の構造設計手法について	33
12/7(土)	ヤマベの木構造の勘どころ	木構造の勘どころを学ぶ	67
1/24(金)、2/7(金)、 2/21(金)	ヤマベの木構造	木造建築物の構造設計に関する連続講義	133
合計		全7回	298



開催告知チラシ



講習会

※H30:227名(全5回)



製材工場見学
(輪島市内)

→参加した建築士の声：木造建築への理解が深まり、良い機会となった

○ 森林への理解を育む木育推進事業（H29～）

1. 木育出前講座

県内の保育施設を対象に、森の大切さや木の良さを伝える「木育」の出前講座を実施

対象	実施施設	参加人数	
		大人	子ども
保育施設	8	242	220
多目的ホール	2	—	39
計	10	501	

※H30: 352人(9施設)



(木工作教室)



(自然体験)

2. 木育セミナー

県内の保育士及び教員を対象として、木育についての知識やノウハウを伝達できる人材を増やすためのセミナーを実施

実施回数	参加者 (保育士等)
4	80

※H29: 112人(4回) H30: 192人(4回)



(日々の保育計画の視点)



(フィールドワーク)

→これまで木育に取り組んでいなかったすべての施設が、今後、木製品の使用や、森・木に触れ合う取り組みを進めたいと回答

○ こども森の恵み推進事業(H19～)

子ども達を対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO団体等を支援

区分	R1
団体数	18
参加人数	7,265

※H30:6,112人(18団体)



(しいたけ植菌体験・白山市)



(森の役割学習・七尾市)

○ いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業(H19～)

毎年10月を「いしかわの森づくり推進月間及び県産材利用推進月間」と定め、県下全域で県民森づくり大会を開催

開催日	開催テーマ	大会内容	参加人数
10/20(日)	小舞子 海岸の森づくり	下刈り、除伐、ベンチ作り	38
10/27(日)	湖畔の森づくり	記念植樹、巣箱設置	55
10/27(日)	憩いの森「秋の祭典」	保育、木工作、苗木配布	112
10/27(日)	権現森 海岸の海づくり	植樹、下刈り	31
10/31(木)	能登の里山 広葉樹の森づくり	広葉樹植栽	53
合計	5地区		289



巣箱設置 (中能登町)



海岸林における植樹 (白山市)

※H28:694人(5地区) H29:413人(5地区) H30:1,482人(6地区)

○ 企業の森づくり推進事業(H19~)

企業による森づくり活動を推進するため、活動事例集の作成、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を実施

区分	R1	H30
協定締結企業数(新規)	3	3
締結企業数	59	57
活動フィールド(地区)	64	63
森づくり活動参加人数	3,950	3,558



現地見学会



体験会

→新たに3企業の協定締結

○ いしかわの身近な森保全事業(H19~)

森林所有者等と協定を締結し、里山林の整備保全等を協働して行う市町を支援

事業主体	事業内容	森林整備等面積(ha)
小松市	地域住民と協働した森林整備活動(下草刈り、除間伐)	1.0
こまつ 日本花の会	地域住民と連携した森づくり活動(荒廃した里山林の整理伐)	6.7
金沢市	地域住民・小学校と協働した森林整備活動(広葉樹の整理伐)	1.2
	地域住民と協働した森林整備活動(広葉樹の整理)	0.5
	地域住民・小学校と協働した森林整備活動(下草刈り)	0.5
合計	5地区	9.9

※H30:3.2ha(4地区)



伐採した広葉樹の利用
(金沢市)

→地域の住人や小学生など317人が参加し、地域の協働による森づくりを推進

○ 森づくりボランティア推進事業(生活環境部温暖化・里山対策室と連携)(H19～)

自主的な森づくり活動を行うNPO等を支援

区分	R1
団体数	18
参加者数	1,805
森林整備等 面積(ha)	29.1

※H30: 28.8ha(18団体1,493人)



(竹林整備・能美市)



(下刈り・加賀市)

○ 里山子ども園推進事業(生活環境部温暖化・里山対策室と連携)(H20～)

保育園・幼稚園の園児を対象に里山を活用した環境教育を実施

区分	R1
プログラム実施数	59
参加園児数等	1,403(52園)
実施場所	夕日寺健民自然園(金沢市) 石川県森林公園(津幡町) 木場湯公園中央園地(小松市) 白山ろくテーマパーク吉岡園地(白山市) 橋立自然公園(加賀市) 和田山・末寺山史跡公園(能美市) ちびっ子自然センター(羽咋市) 七尾市希望の丘公園(七尾市) 健康の森総合交流センター(輪島市) 鳳来山公園(輪島市) 能登島マリンパーク(七尾市)

※H30: 1,447人(53園)、59回



夕日寺健民自然園(金沢市)

→保育士の9割以上が、今後、園独自で自然体験活動を実施したいと回答

○ いしかわの森整備活動CO₂吸収量認証事業 (生活環境部温暖化・里山対策室と連携)(H19～)

企業等が行う森づくり活動による二酸化炭素の吸収量証書を交付

区分	R1	H30
認証数	19	18
認定吸収量(t-CO ₂)	50.6	45.3



森林整備活動CO₂吸収証書交付式

○ いしかわ版CO₂削減活動支援事業(生活環境部温暖化・里山対策室と連携)(H29～)

企業等から協賛を募り、NPOやボランティア団体等の営利を目的としない団体が行う森林保全活動を支援

年度	R1	H30
支援件数	10	14



植栽地の下刈：七尾市



植栽地の下刈：野々市市



→企業の声:森林保全の応援ができる取組であり、今後の進めたい

○ いしかわ景観キッズプログラム(土木部と連携) (H21~)

子供達を対象に里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する
体験学習を実施

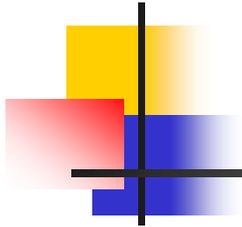
日時	参加学校	参加人数
6/7(金)	金沢市立馬場小学校	19
6/24(月)	金沢市立馬場小学校	20
6/26(水)	金沢市立馬場小学校	39
	計(延べ参加人数)	78

※H28:43人(3校) H29:64人(2校) H30:114名(2校)



金沢市立馬場小学校 (犀川緑地・金沢市)

→参加者の声:町歩きや写真撮影を通して、風景や景観に対する理解が深まった



Ⅲ 県産材利用促進事業 第3期(R1)実績

Ⅲ 県産材利用促進事業

令和元年度からの新たな使途として、県産材の需要を拡大させることで、手入れ不足人工林の発生を未然に防ぎ、森林の持つ公益的な機能の維持増進を図る県産材利用促進対策を実施



○ いしかわの森で作る住宅推進事業

県産材の使用量に応じて定額を助成

- 使用量：7m³以上 ⇒ 助成額：10万円
- 使用量：20m³以上 ⇒ 助成額：30万円
- 使用量：25m³以上かつ県産材使用率90%以上 ⇒ 助成額：50万円

区分	助成件数	県産材使用量
5~7m ³ ※	27件	165m ³
7~20m ³ 未満	132件	1,344m ³
20m ³ 以上	30件	732m ³
25m ³ 以上かつ県産材 使用率90%以上	26件	934m ³
計	215件	3,175m ³

※5~7m³の助成枠はR1年度限りの時限措置



○ 民間施設県産材需要創出モデル推進事業

木材利用が進んでいない非住宅分野における県産材需要を創出するため、モデル性や普及啓発効果が高く、県産材使用の模範となる民間施設へ助成

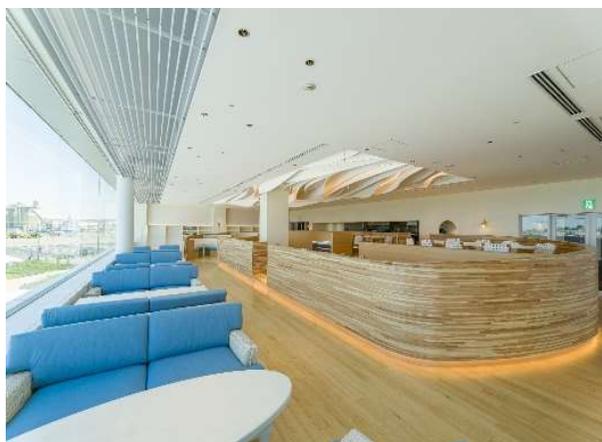
公募の上、県産材使用部分の材料費、工事費の1/2を上限に支援
※使用する材がC L T等の新材材の場合、材料費の3/4、工事費の1/2

【令和元年度助成施設】



シモアラホールディングス(株)
営業所内市民交流スペース
「ハレノチクモリ」

県産材使用量:77m³
(うち木質新材材 13m³)



(株)メープルハウス
金沢港クルーズターミナル内
レストラン

県産材使用量:28m³
(うち木質新材材 4m³)



工房千樹
山中漆器工房兼ギャラリー

県産材使用量:33m³

○ いしかわの木づくり運動推進事業

県産材利用の機運醸成に向け、県産材の認知度向上に向けた取組や
県産材の利用拡大における功績のあった者を表彰する取り組み等を実施

・Japan Home & Building Showを活用した県産材製品のPR

住まいに関する建材・部材・設備・サービスが一堂に会する日本最大級の専門展示会



令和元年度展示会

・住宅専門誌等を活用した県産材補助制度のPR

・令和元年度いしかわの木づくり表彰受賞者

(1) 県産材利用住宅部門

① 県産材の需要拡大に貢献した者

(株)玉家建設 (7m³以上92戸)

(株)シモアラ (7m³以上5戸、20m³以上21戸)

(株)北陸リビング社 (20m³以上5戸)

② 他の模範となる住宅

田上新町見晴らしの家【金沢市】 県産材使用量:20.35m³



田上新町見晴らしの家(金沢市)

(2) 県産材利用施設部門

① 金沢信用金庫大聖寺支店【加賀市】 県産材使用量:175.00m³

国内で2例目(北陸では初)となるCLTを活用した金融施設



金沢信用金庫大聖寺支店



能登町柳田総合支所

② 能登町柳田総合支所【能登町】 県産材使用量:61.22m³

市町における公共建築物木造化のモデル(県内初の行政庁舎の木造化)

(3) 県産材利用製品部門

県産スギを活用した子供用のイス【白山市】

県内で唯一、圧縮加工により強度を高めた県産スギを活用した家具を製造・販売



県産スギの子供用イス

令和元年度 事業実績

いしかわ森林環境基金事業

421,099千円

税 377,356千円

国庫 43,743千円

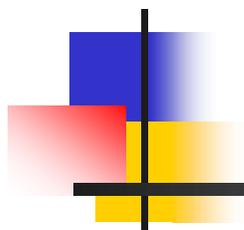
※端数処理の関係上、
計は一致しない

- **森林整備** 289,587千円
 - ・放置竹林の除去等
 - ・緩衝帯整備
- **環境林整備事業の推進** 2,016千円
 - ・森林所有者との協定締結等について補助
- **環境林モニタリング調査** 21,006千円
 - ・森林の機能回復を把握するための調査や施業箇所の環境影響調査(事前調査)

- **いしかわの森で作る住宅推進事業** 37,360千円
 - ・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成
- **民間施設県産材需要創出モデル推進事業** 30,911千円
 - ・県産材使用の模範となる民間施設への助成
- **いしかわの木づかい運動推進事業** 5,602千円
 - ・県産材の利用促進に向けた機運醸成

- **森林や木材利用に対する理解の増進** 13,931千円
 - ・普及啓発や情報提供の実施 等
- **県民参加の森づくりの推進** 20,685千円
 - ・県民森づくり大会等の開催や子ども達が参加する森林体験活動への支援 等

いしかわ森林環境基金事業の 令和2年度の実施内容



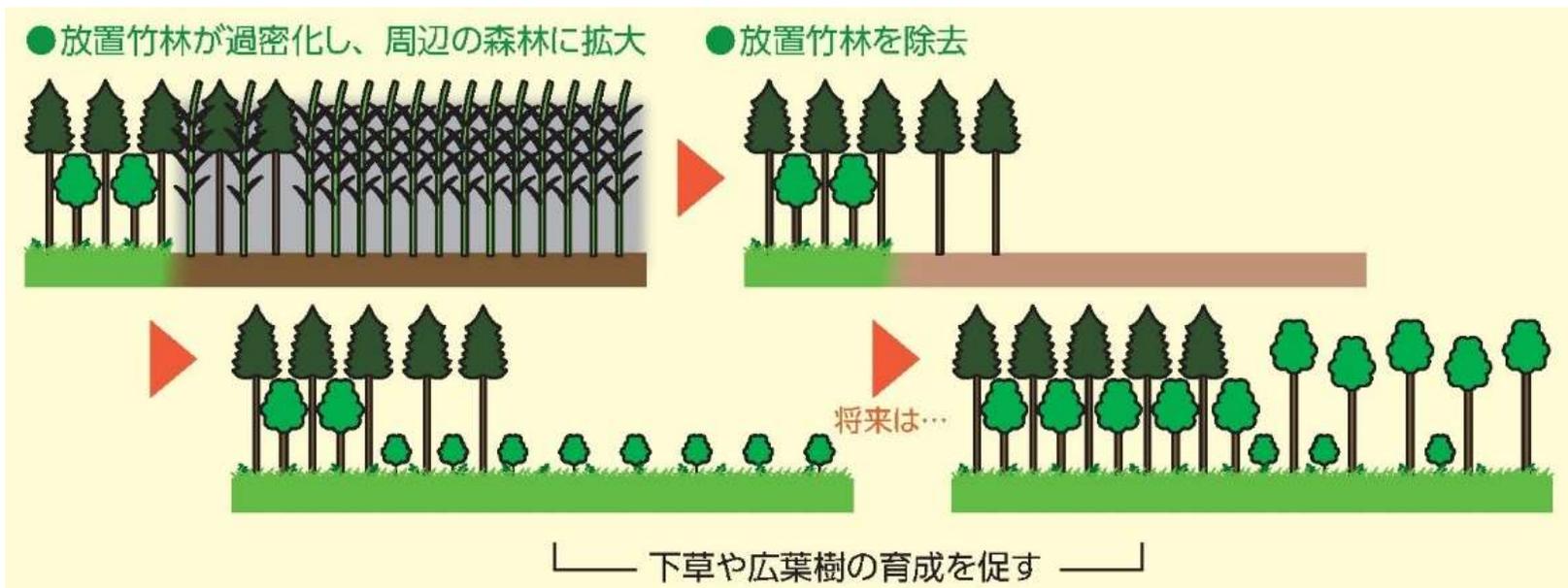
I 森林整備の取組

1 森林の公益的機能の低下をもたらす放置竹林の除去

森林の持つ公益的機能の発揮に支障を来すおそれのある、周辺森林に侵入・繁茂している管理されなくなった竹林の除去を実施します。

令和2年度

項目	計画面積
放置竹林の除去	120ha



2 クマ、イノシシなどの野生獣の出没を抑止するための緩衝帯整備

野生獣の出没を抑止することを目的として、過密化した里山林において森林の見通しを良くするため、立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施します。

令和2年度

項目	計画面積
緩衝帯整備	60ha



II 普及啓発の取組

普及啓発事業一覧(令和2年度)

単位:千円

	事業名等	事業概要	予算額
森林や木材利用に対する理解の増進	いしかわ森林環境評価委員会開催	税の用途説明及び検証のため、第三者からなる評価委員会を開催(委員12名)	600
	いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの作成・配布や、イベント、のぼり旗、成果を紹介する映像や広報誌等による普及広報	7,000
	いしかわ森林環境功労者表彰	県内での森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰	120
	いしかわ森林環境実感ツアー	親子や一般県民、小学生を対象とした、川上(間伐の現場)から川下(木造公共建築物)までを見学するバスツアーの開催	2,900
	木に親しむまちづくり推進事業	建築士等を対象に、新たな建築資材(CLT等)や最新の木造建築に関する工法、県産材活用例等を紹介する講習会を開催	2,000
	森林への理解を育む木育推進事業	保育士等を対象に、子どもたちへ木の大切さを伝えるセミナーや、遊びと学びを組み合わせた実演会を開催	2,000
県民参加の森づくりの推進	こども森の恵み推進事業	次世代を担う子供達を対象とした森林環境教育や体験活動を実施するNPO等への支援	3,000
	いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業	毎年10月の森づくり推進月間及び県産材利用推進月間において、県民が参加する森づくり・木づかいイベントを開催	2,600
	企業の森づくり推進事業	企業による森づくりを推進するためのフィールドマップの作成や企業に対する説明会、現地見学会などの開催	1,000
	いしかわ身近な森保全事業	里山林等において地域住民等と協働して行う森林整備や木材等の利用活動への支援	5,000
	フォレストサポーターによる森づくり推進事業	フォレストサポーターを活用した森林整備の推進	1,090
	森づくりボランティア推進事業【生活環境部】	里山等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等への支援	4,300
	里山子ども園推進事業【生活環境部】	里山を活用したもりの保育園のモデルプログラムの企画実施、保育士等の体験会実施	3,000
	いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業【生活環境部】	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行	1,000
	いしかわ景観キッズプログラムの開催【土木部】	小学生を対象に、里山景観に関心を抱き、大切さを学習する体験教室を開催	800

Ⅲ 県産材利用促進の取り組み

県産材の需要を拡大させることで、手入れ不足人工林の発生を未然に防ぎ、森林の持つ公益的な機能の維持増進を図ります。

いしかわの森で作る住宅推進事業

県産材を使った住宅等を新築・増改築・購入する方への助成により、住宅分野における県産材需要を拡大

民間施設県産材需要創出モデル推進事業

モデル性や普及啓発効果が高く、県産材使用の模範となる民間施設への助成により、非住宅分野における県産材需要を創出

いしかわの木づかい運動推進事業

県産材の認知度向上に向けた取組や、県産材の利用拡大に功績のあった者の表彰などにより、県産材利用の機運を醸成

IV 令和2年度 事業計画

いしかわ森林環境基金事業

447,410千円

税 387,410千円

国庫 60,000千円

- **森林整備** 307,000千円
 - ・放置竹林の除去等 120ha
 - ・緩衝帯整備 60ha
- **環境林整備事業の推進** 2,860千円
 - ・森林所有者との協定締結等について補助
- **環境林モニタリング調査** 21,140千円
 - ・森林の機能回復を把握するための調査や施業箇所の環境影響調査(事前調査)

- **いしかわの森で作る住宅推進事業** 40,000千円
 - ・県産材を使った住宅等の新築・増改築・購入への助成
- **民間施設県産材需要創出モデル推進事業** 34,000千円
 - ・県産材使用の模範となる民間施設への助成
- **いしかわの木づくり運動推進事業** 6,000千円
 - ・県産材の利用促進に向けた機運醸成

- **森林や木材利用に対する理解の増進** 14,620千円
 - ・普及啓発や情報提供の実施 等
- **県民参加の森づくりの推進** 21,790千円
 - ・県民森づくり大会等の開催や子ども達に参加する森林体験活動への支援 等